

## 卵巣明細胞腺癌における核内封入体の細胞診断学的有用性の検討

### 【はじめに】

卵巣癌には、主として、漿液性腺癌（低悪性度および高悪性度）、類内膜腺癌、粘液性腺癌、明細胞腺癌の4つの組織型があります。これらの卵巣癌は組織型により化学療法への感受性に差異があり、特に明細胞腺癌は予後不良なことが報告されており、卵巣癌の組織型の決定は治療を行う上で重要な事項であります。卵巣癌の組織型診断は通常病理組織学的に行われますが、手術不能例は腹水細胞診による組織型推定が必要になる場合などがあり、各亜型の細胞像を詳細に明らかにすることは臨床上有用であります。我々は明細胞腺癌の組織像、細胞像においてしばしば核内封入体が存在することに気付きましたが、その診断的意義についての報告はありません。本研究では、卵巣癌の代表的な4つの組織型における核内封入体の診断的意義について検討することを目的としました。また、得られた結果と臨床所見や病理所見との関連を解析する予定です。

### 【対象】

対象者は、平成7年1月1日から平成26年3月31日までに、九州大学病院産科婦人科で卵巣癌の手術を行い、病理診断科・病理部に卵巣癌捺印細胞診標本と腹水細胞診標本（パパニコロウ染色標本）が提出された症例の合計100例を予定しています。

対象者の受診された診療科は産科・婦人科となります。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

### 【教育・研究内容】

今回は、卵巣明細胞腺癌における核内封入体の診断的意義を検討する目的で、細胞診標本を用いて（1）1）核内封入体の有無、出現率、出現形式、2）細胞および核の形、3）核クロマチンの性状、4）核小体の性状、5）核クロマチンの分布、6）背景所見、7）細胞集塊の性状について光学顕微鏡を用いて観察を行います。（2）観察した項目について組織型で比較検討します。（3）核内封入体と症例の臨床所見、病理所見との関連について検討を行います。（4）捺印細胞

診標本の一部を用いて、癌細胞の核膜を免疫化学染色して核内封入体を3次元観察します。

#### 【個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学系学府保健学専攻及び九州大学医学部保健学科検査技術科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないように致します。

また、標本の紛失を防ぐために、厳重な運搬用ケースにて運搬をし、紛失等の無いように記録管理を行うとともに、カギを掛けて厳重に保管致します。

さらに本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

#### 【教育・研究期間】

承認日から平成30年3月31日までです。

#### 【医学上の貢献】

本研究を通して、卵巣明細胞腺癌の細胞診による組織亜型診断の精度を向上させる事ができます。

#### 【データの二次利用について】

本研究において採取した試料、得られたデータ等は、九州大学大学院医学研究院保健学部門学検査科学技術分野において、同分野教授 杉島 節夫の責任の下、研究期間終了後3年間保存した後、登録番号等を消去し、医療廃棄物として廃棄します。

上記の試料、データ等のうち、将来別の医学研究に二次利用する目的で、前述の保存期間を超えて保存します。二次利用する試料、データ等は将来新たに計画・実施される医学研究が倫理審査委員会で承認された後に利用します。

#### 【研究機関】

研究責任者：九州大学大学院医学研究院 保健学部門

検査技術科学分野病態情報学 教授 杉島節夫

研究分担者：九州大学大学院医学研究院 基礎医学部門

形態機能病理学 准教授 大石善丈

九州大学大学院医学研究院 基礎医学部門

形態機能病理学 教授 小田 義直

九州大学大学院医学研究院 臨床医学部門

生殖病態生理学 教授 加藤聖子

研究事務局：九州大学大学院医学系学府 保健学専攻

連絡先担当者：仲 正喜

電話：092-642-6745 E-mail [naka@med.kyushu-u.ac.jp](mailto:naka@med.kyushu-u.ac.jp)